

学校評価について

学校評価とは

学校評価とは、川内市医師会立川内看護専門学校が、学校活動全般について自己改革を行うとともに、学生を専門職業人として育成できる教育に向き合い、学校の設置目的を達成するために行う評価のことです。

学校評価は教育機関としての機能を包括的に判定する学校関係者評価と、教員による教育方法と内容の評価である教員自己評価からなっています。それぞれの評価は下記の通りです。

令和2年度の取り組みと評価

<学校関係者評価委員会>

令和3年3月26日(金)：第6回学校関係者評価委員会実施いたしました。

評価者：学校関係者評価委員6名 参加者：学校長以下3名

以下評価コメント(一部抜粋)

「I 教育理念・目的・人材育成像」について

地域に貢献できる看護師の育成を目指した理念・目的・目標は定められ、社会ニーズをふまえた甕島での研修開始や、すでに始まっている「脳と心」等は評価を得ることはできた。しかし、社会の変化に対しての学校の将来の構想が不明瞭であることや講師会議再開が課題となった。

「II 学校運営」について

運営方針や事業計画の策定においては高い評価を得ているが、コロナ禍でオンラインシステムは実施できるよう整備されたが、今後もICTを活用した情報公開等への取り組みを求められた。

「III 教育活動」について

目標の設定や教育方法・評価方法は、「カリキュラム委員会」の活動や「進路就職支援相談会」「日本文化と礼法」の実施に対し評価を得ることができた。ただ毎年低値の国家試験対策の体系的な位置づけ(シラバスに明記等)を早急に進めてほしいとのことだった。

「IV 学修成果」について

卒業生がいないため評価できないという委員が多かった。退学者2名は、その理由を分析し、減少の方向で努力しなければならないこと、継続的な支援体制作りが課題である。

「V 学生支援」について

進路就職に関しては、図書室の専用コーナーの設置や進路就職支援相談会の開催、また、同窓会準備委員会を立ち上げたことは評価されたが、この同窓会を今後どう活かしていくか、社会人入学に力を入れている本校としては、社会人のそれぞれの状況に合わせた個別的な支援体制をどう作っていくかが課題である。

「VII 学生募集」について

学校訪問に加え、オープンキャンパス・ナイトガイダンス、HPの充実等努力しているが、受験状況に大きな変化がないので今後も継続的努力が必要。

「IX 社会貢献・地域貢献」について

法令遵守等はできているが、今年度はコロナ禍で地域貢献やボランティア活動が実施できていないため評価は低かった。

令和2年度の学校関係者評価は、新たに始めた講義や同窓会活動等が評価され令和1年度より平均が上昇した。次年度の課題は「講師会議」の再開、教育活動の中に「国家試験対策」の体系的な位置づけ、退学者の低減への対応、社会人・進路就職活動・卒業生への支援体制を作ることと地域貢献である。

令和3年度は、初めての卒業生を社会に輩出する。本校の強みを伸ばし、課題を改善することで、教育の質を上げ、これからも地域に貢献できる看護師の育成に努めていきたい。

学校関係者評価委員会、大項目評価の平均値(令和3年3月26日)

5点満点評価

評 価 項 目 (*評価大項目及び付随する小項目内容・項目数)	H29 年度	H30 年度	課程 変更	R1 年度	R2 年度
	平均 評点	平均 評点		平均 評点	平均 評点
I、教育理念・教育目的・人材育成像 *学校の理念・目的・育成人材像は定められているか等 5項目	4.8	4.8		4.4	4.7
II、学 校 運 営 *目的等に沿った運営方針が策定されているか等 8項目	4.9	5.0		4.5	4.5
III 教 育 活 動 *目標の設定、教育方法と評価、資格試験・国家試験教職員について等 14項目	4.2	4.6		4.2	4.5
IV 学 修 成 果 *資格取得率の向上が図られているか、卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動改善に活用しているか等 5項目	2.3	2.4		2.6	3.7
V 学 生 支 援 *進路・就職に関する支援体制は整備されているか等 8項目	4.1	4.2		3.3	4.5
VI 教 育 環 境 *施設・設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備されているか等 3項目	4.7	5.0		5.0	5.0
VII 学 生 募 集 *学生募集活動は、適正に行われているか等 4項目	4.8	4.8		4.6	4.7
VIII 法 令 等 の 遵 守 *法令、専修学校設備基準等の遵守と適正な運営等 4項目	4.8	4.7		4.8	5.0
IX 社会貢献 地域貢献 *学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献・ボランティア活動をしているか 3項目	4.7	5.0		4.5	4.2
総項目平均評価点	4.4	4.5		4.2	4.5

教員自己評価 (令和3年1月末実施)

<教員自己評価>

5点満点評価

各評価内容別平均値での比較		H29	H30	課程 変更	R1	R2
I、教育課程 教授活動	1. 授 業	3.4	3.4			3.8
	2. 実 習	3.3	3.3		3.5	3.3
	3. 学 級 運 営・指 導	3.4	3.3		3.5	3.3
	4. 資 格 試 験	3.3	3.2		3.1	2.9
	5. 行 事・他	3.4	3.4		3.8	3.4
II、研究・研修	6. 研究・研修	3.2	3.4		3.3	2.8
III、組織運営 広報活動	7. 組 織 運 営	3.4	3.6		3.6	3.4
	8. 学 生 募 集	3.4	3.1		3.5	3.3
	9. 施 設 設 備	3.5	3.6		3.9	3.4
総 合 平 均 点		3.4	3.4		3.5	3.3

- 令和3年1月末実施

教員自己評価では、「Ⅰ,教育課程・教授活動」が21項目、「Ⅱ,研究・研鑽」が3項目、「Ⅲ,組織運営・広報」が11項目、3分野35項目について5段階評価を行い、自己の取り組みの改善を図っています。

令和2年度教員自己評価結果（一部抜粋）

総合平均点の変化は、すべての項目で低下している。原因としては、新しい教員が入職し慣れない中での評価であったことや学会参加や研修等を受講する機会が減少したことが考えられる。教職員全体の質を向上させる体制作りが課題といえる。

1. 「授業」に関しては、すべての小項目で自己評価が低下している。新しい教員が増え、授業等に関して試行錯誤している段階といえる。新人教育支援体制を策定し、安心して授業に取り組める環境、また、前年同様、「公開授業」を継続して、互いの授業を高めていけるような環境を作る。
2. 「実習」に関しては、大きな変化はないが、臨床指導者との連携調整の項目が低い。今年度は、実習要項をもとに要領・指導要領を作成し、実習目標の到達に格差がでないよう学生指導を行えた。次年度からは、すべての領域の実習が開始する。教員と臨床指導者とより円滑な人間関係が図れるよう努力していく。
3. 「学級運営・学生指導」に関しては、前年度と大きな変化はない。教員数も増えたので、朝礼の中で業務の調整等を行い担任業務・学生指導が円滑に運ぶよう努めた。
4. 「資格試験」に関しては、国家試験対策委員が業者模試を組んで対応してきたが、教職員が全員でという意識は低かった。また、成績低迷者への指導も計画的に実施できたとはいえない。次年度は、初めての国家試験を受験するため3年生担任・国家試験対策委員を中心に全員で学生をバックアップしていく。
5. 「行事・他」に関しては、コロナ禍であったため多くが中止になったが、行われた行事は教員間の連携もよく実施できた。特に戴灯式は縮小して実施したが、学生の自覚につながった。今後は、行事等もオンラインで実施できるような対策も検討していく必要がある。
6. 「研究」は計画的に進めることができなかった。また研修参加もばらつきがみられた。均等に教員が参加でき、学生に質のいい教育を提供したい。
7. 「組織運営」としては、「組織運営」としては、教職員は、互いに尊重しながら行動しているが、誰に相談すればよいのか戸惑うときがあるという意見もあった。誰にでも相談でき、声をかけあう職場環境作りを行う。
8. 「学生募集」「施設整備」は、今年度は、学校訪問は、できるだけ足を運び、担当地区を教職員で決めて顔なじみになれるよう努めた。また、年明けからはオンラインでオープンキャンパスを開催しHPの活用にも力を入れた。物品類は、コロナ禍のため調達できないことも多かった。年末に県の補助金の申請を行い、サーバーやパソコンビデオカメラ等の備品を揃えることができた。

令和3年度は、2022年のカリキュラム改正に向けての準備を行いながら、オンライン研修等を取り入れて自己研鑽し、教員一人一人の資質の向上と、学生の個性に合わせた丁寧な教育が充実した学生生活につながり、専門職としての質の向上につながる。また、次年度は、国家試験もあるので皆で気を引き締めて取り組んでいきたい。